

令和3年度 小山工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する自己点検評価

目的：令和3年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」の審査項目の観点によるプログラムの評価

認定制度の審査項目	モデルカリキュラム	対象科目	評価
<p>(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-1、導入1-6が該当</p>	<p>導入</p> <p>1-1. 社会で起きている変化</p> <p>1-6. データ・AI利活用の最新動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工学基礎 科学技術倫理 コラボワーク I 	A
<p>(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-2、導入1-3が該当</p>	<p>導入</p> <p>1-2. 社会で活用されているデータ</p> <p>1-3. データ・AIの活用領域</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工学基礎 コラボワーク I 	A
<p>(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p> <p>※モデルカリキュラム導入1-4、導入1-5が該当</p>	<p>導入</p> <p>1-4. データ・AI利活用のための技術</p> <p>1-5. データ・AI利活用の現場</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工学基礎 科学技術倫理 コラボワーク I 	A
<p>(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p> <p>※モデルカリキュラム心得3-1、心得3-2が該当</p>	<p>心得</p> <p>3-1. データ・AIを扱う上での留意事項</p> <p>3-2. データを守る上での留意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工学基礎 コラボワーク I コミュニケーションリテラシー I コミュニケーションリテラシー II 	A
<p>(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p> <p>※モデルカリキュラム基礎2-1、基礎2-2、基礎2-3が該当</p>	<p>基礎</p> <p>2-1. データを読む</p> <p>2-2. データを説明する</p> <p>2-3. データを扱う</p>	<ul style="list-style-type: none"> 工学基礎 コラボワーク I コミュニケーションリテラシー I コミュニケーションリテラシー II 	A

S：審査項目の内容を上回る成果を達成している。

A：審査項目の内容通りの成果を達成している。

B：審査項目の内容の成果を達成できていないが、達成に向けた対策を立案、着手できている。

C：審査項目の内容の成果を達成できず、達成に向けた対策が計画されていない。